

伊香高等学校「森の探究科」開設

～ 環境未来人材の育成にむけて～

令和6年度
「新時代に対応した
高等学校改革推進事業」



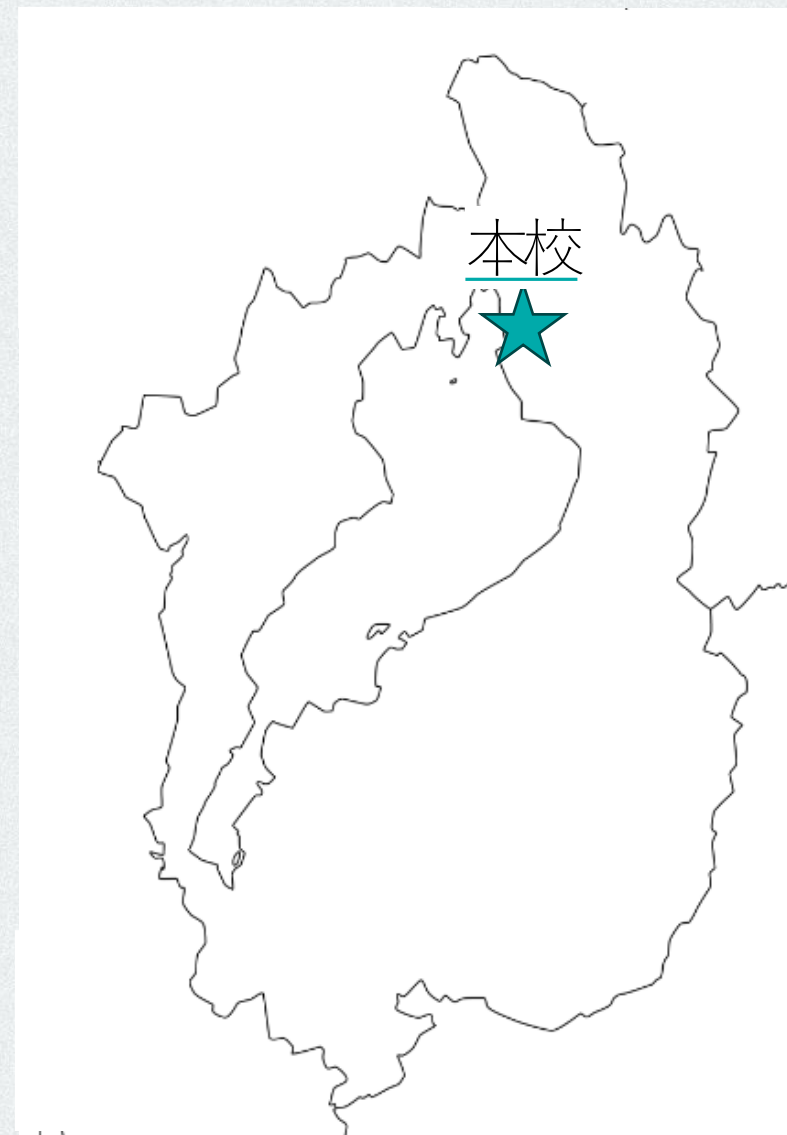
滋賀県立伊香高等学校 魅力化推進室(「森の探究科推進室」)

■今日の流れ

- 1 | 本校の基本情報
- 2 | 新学科『森の探究科』の学び
- 3 | 新学科『森の探究科』設置への道のり
- 4 | 指定終了後の取組継続について

1. 本校の基本情報

- ✓ 明治 29 年 農業補修学校として設立
- ✓ 地域の学校として 128 年
- ✓ 滋賀県最北部に位置
- ✓ 生徒数 272 名、教員数 32 名
- ✓ 1 学年 3 クラス



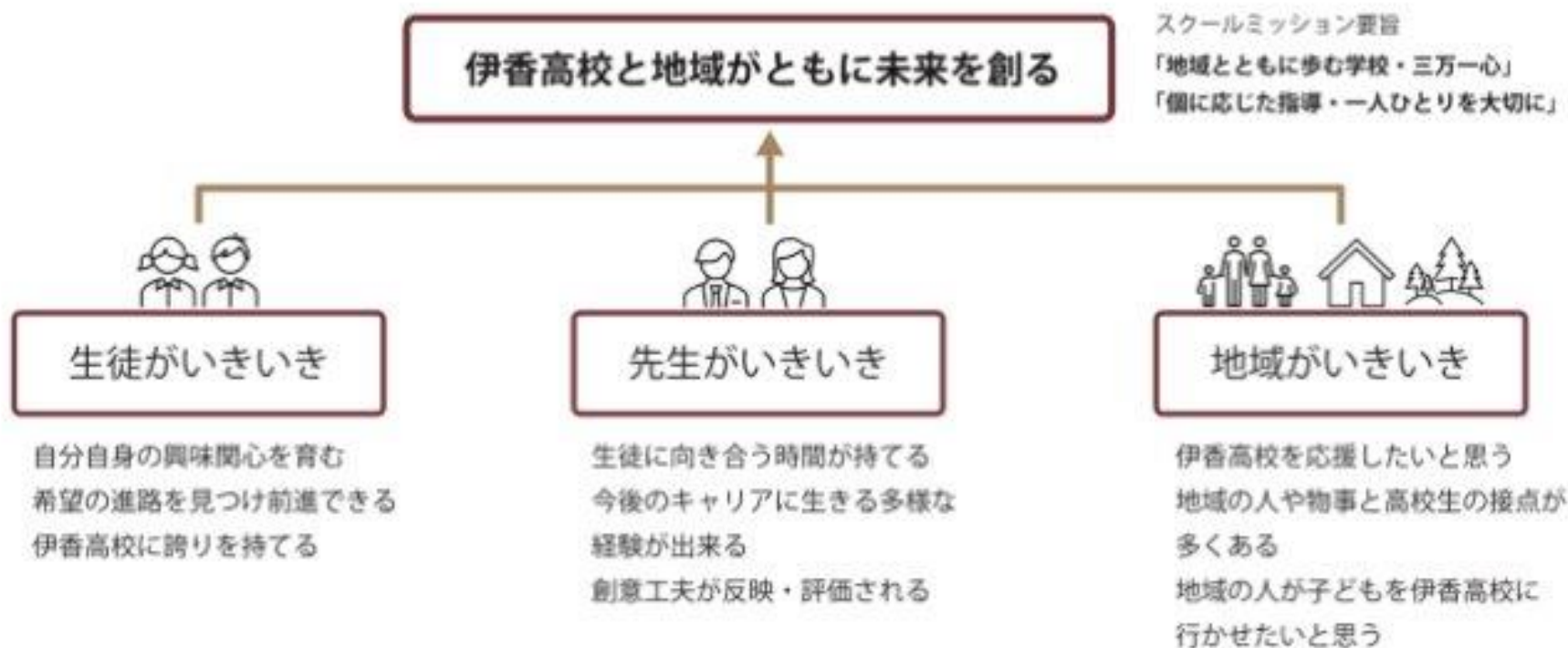


■伊香高 “Go Beyond” プロジェクトについて

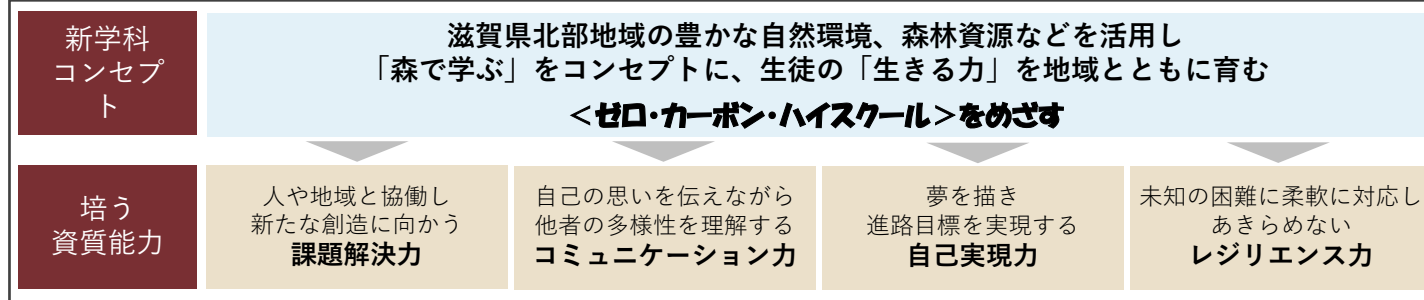
「Go Beyond～超えてゆけ～」を合言葉に、高校をより魅力的にしていく活動を令和4年度にスタートしました。

地域の想いでつくられた高校の歴史に立ち返り「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを活動の目標と設定しています。

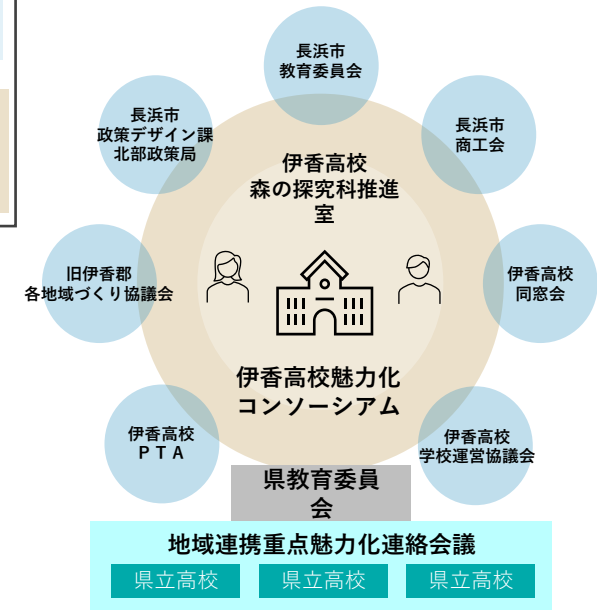
そのためには、学校に関わる「生徒」「先生」そして「地域」がいきいきとしていくことが欠かせません。そのような状態をつくっていくために、様々な活動を実施していきます。



【滋賀県立伊香高等学校】地域社会学科（令和7年度設置（予定））



関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和5年度の目標

- 「森の探究科推進室」を中心とした研究開発
 - ・カリキュラムの開発
 - ・新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・コンソーシアムの立ち上げ
 - ・ウェブサイトやSNSを活用した情報発信

令和5年度の取組状況

- コーディネーターの役割の明確化
 - ・校務分掌に位置付け
 - ・職員室内に専用デスクを配置
- カリキュラムアドバイザーを加えたカリキュラム開発会議(内部)の開催
- 外部の専門家を中心に組織したカリキュラム分科会(外部)の開催
- 新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学び
- 地域をフィールドとした探究的な学びの実施
 - ・地域の人々や文化的資源を活用した多様な地域探究の学び
- 先進校視察(林業の学び)
- コンソーシアム立ち上げのための各主体との調整
- 運営指導委員会の開催

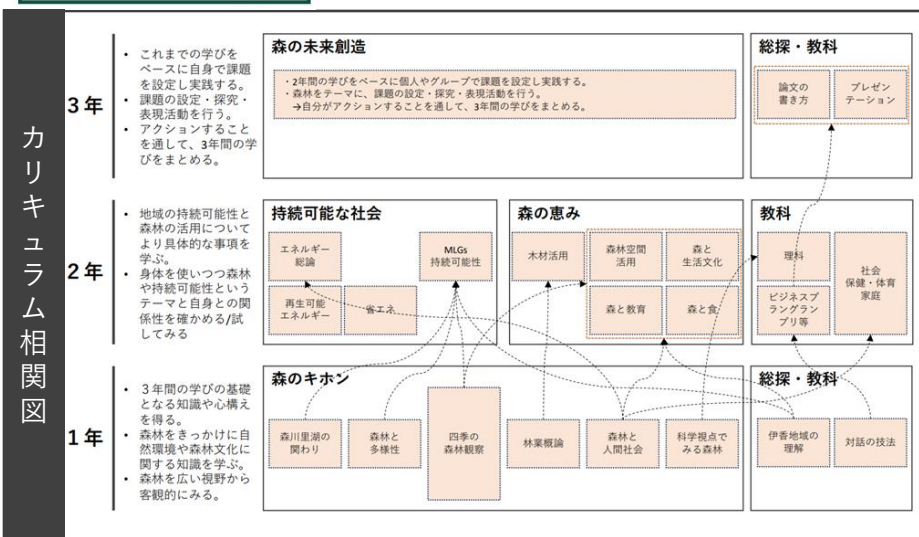
令和5年度の成果と課題

成果

- 新学科のコンセプトや学校設定教科・科目の大枠の検討・作成
- 運営指導委員会等による専門家の意見を反映したカリキュラム案の作成
- 新学科設置に向けた先行授業の実施
- 「総合的な探究の時間」の授業内容の検討・実施
- コンソーシアムの立ち上げ
- 伊香高等学校魅力化シンポジウムの開催
- 「伊香高通信」の発行
- SNS等を活用した情報発信

課題

- カリキュラム内容の精緻化
 - ・学校設定教科・科目の具体化とその評価指標の設定
 - ・教科や類型を横断したカリキュラム・マネジメント
- カリキュラムの体系的な授業の組み立て
- コンソーシアムの本格的な運営
- 新学科に関する地元地域への丁寧な説明と継続的な広報活動の実施
- 普通科も含めた学校全体の魅力化



2. 新学科『森の探究科』の学び

これからの 地球環境と地域のために

「森の探究科」を設置します。

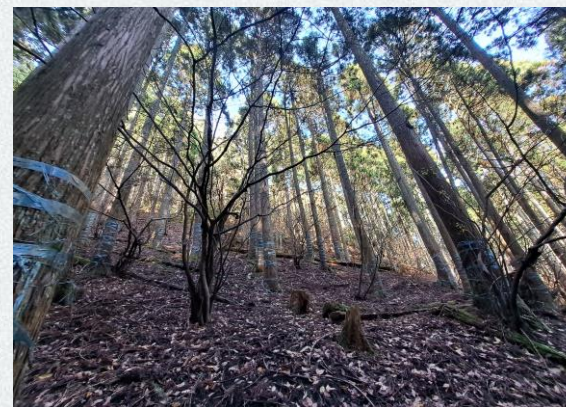
伊香高校は今年度128年目を迎える。本校は滋賀県最北部に位置し、周囲は緑豊かな山々に囲まれ、日本最大の湖・琵琶湖も間近に見渡すことができる。これら「森・川・里・湖」が水系でつながることを体感できる滋賀ならではの学びに取り組むべく、新学科「森の探究科」を設置する。

「森の探究科」の学びは、「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の生きる力を地域と育むことを目標とする。学びのなかには、滋賀県の提唱するMLGs（マザーレイクゴールズ・琵琶湖を切り口とした滋賀県版のSDGs）や、2023年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行った長浜市と連携しながら、持続可能な社会と琵琶湖に根差した暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会の構築を考える人材育成を図る。

豊富な地域資源



学校林の存在



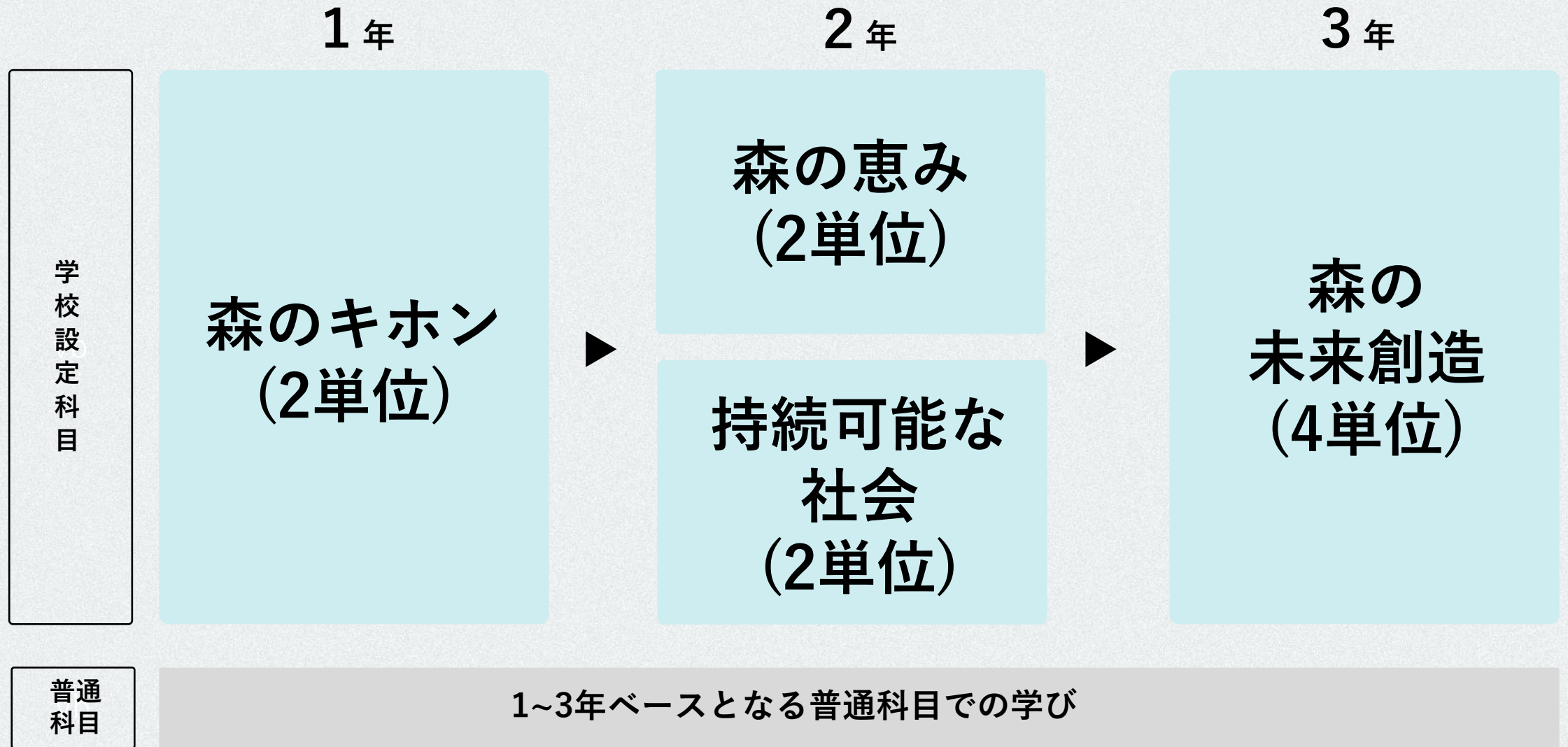
県・市の取組



地域の自然災害



3年間の流れ



「森の探究科」の学び

1

地域を フィールドに

地域の森林資源の整備と活用を実践的に学ぶなかで、フィールドワークや地域の専門家との対話を通して探究的に学ぶ。林野庁が提唱する「新たな森と人の関わり」＝「Forest Style」の創造につながる学びを展開し、森林資源の活用を通して、健康的、文化的で心豊かな暮らしを目指す資質を涵養する。



2

滋賀県ならではの 学び

滋賀県の森林面積は約50%を占めているが、県内面積の6分の1を占める琵琶湖を除くと、陸地の60%近くが森林となっている。山々に降り注ぐ1滴は、やがて川となって田畑や里地を潤しながら、琵琶湖へと流れ込み、琵琶湖の豊かな生態系を育んでいる。このような「森・川・里・湖」のつながりを本学科の学びとして展開する。



3

多面的・多角的に 森を捉える

森林は、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源の涵養、保健休養の場の提供など、多くの機能を有しており、私たちの生活に大きく関わっている。このような森林の多面的機能の意義や役割を見直し、包括的な自然環境の理解やエネルギー、森林サービスといった新たな森林価値の創出を試みる。





依田林業HP
より掲載

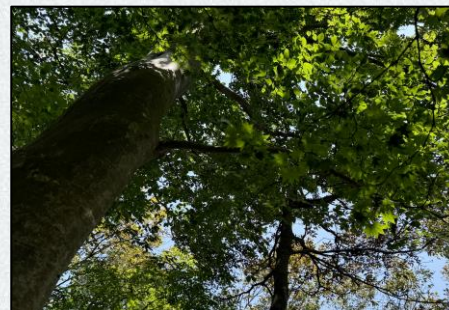
自然観察



森・川・里・湖のつながり



生物多様性保全



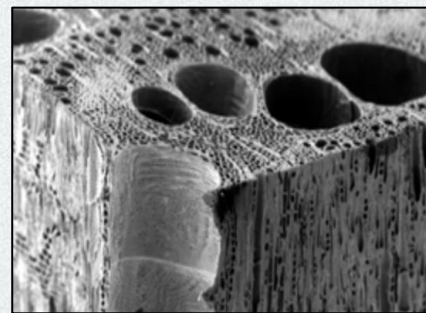
土壌



林業の川上から川下



樹木の性質



湖北の文化



木工



林産物



伝統品



アロマ



アウトドア



染物



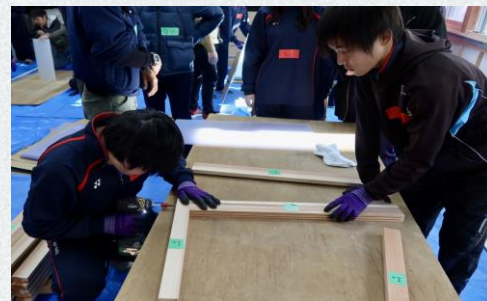
教育



環境問題



エネルギー対策



防災



産業



3年 | 森の未来創造へ

3年 | 森の未来創造 (4単位)

課題を 自分で 設定します！例えば、



「人が集まる森をつくろう」 「森と水の関係調査」

「学校で発電しよう・地域電力の循環」

「森と地域のこども達」 「アートとしての森」 など…



先行授業例 1

森のキホン

共有林探索



森林管理を知る

学校裏の地域共有林を、森林組合の方に案内していただき、樹種や森林管理について講義を受けた。植林してから伐採までに60年、林業の「川上」となる伐採・植林の工程は未来を見据えた施業であった。

生態系保全現場の見学



生物多様性とは

奥琵琶湖に位置する「山門水源の森」は1400万人の飲料水を支える淀川の源流地域である。特異な気候条件や湿地帯を有するこの場所で、珍しい植生や生態系を観察し、生物多様性の保存について講義をうけた。

製材所見学



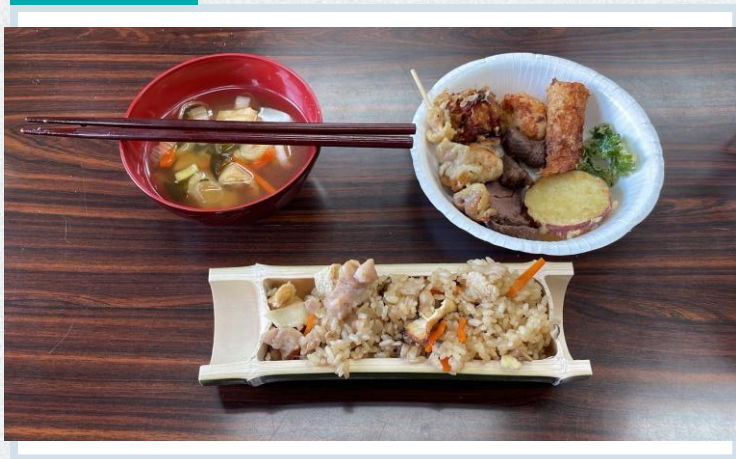
川上から川下まで

森林管理の現場見学を行った後、地域工務店にて製材所見学を行った。一連の実習において、林業の「川上～川中～川下」を網羅し、森林資源の循環を体感するに至った。

先行授業例 2

森の恵み

食文化実習



森の恵みを食す

地域事業者からいただいたキノコやタケノコ、鹿肉などの森の恵みを調理し食すことで、人と自然の関係、身近にある里山と雑木林、放牧竹林などの関係を見直すきっかけとした。

園児たちへの樹木レクチャー



樹木の魅力を伝える

本校はかつて農業科があった名残りで、校内には多くの樹木が植えられている。観察や講義を通して得た知識を、地元ことも園の園児たちに紹介し、樹木の魅力を伝えた。

草木染め実習



四季を感じる

草木染めは、植物がもつ天然の色素を利用した染色法であり、人工的な染料では表現しえない色や深みをもたらす。実習では、校内の樹木の枝葉を用い、季節ごとの風合いを生かした染色を行った。

先行授業例 3

持続可能な社会

炭焼き体験



エネルギーとしての産業

かつて長浜で主要産業であった炭焼き。近年の燃料革命によって、製炭業は衰退し、長い間山村経済を支えてきた暮らしのエネルギー源としての機能は失われている。かつての地域産業を体験し、エネルギーとして利用していた当手を想像し、現代で利用するエネルギーの膨大さを体感した。

水力発電所見学



再生可能エネルギーの現場

近年の顕著な地球温暖化に対して、政府は2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする目標を掲げている。脱炭素とエネルギー安全保障の両立が求められるなか、地域で再生可能エネルギー事業に取り組む企業を訪問し、エネルギーのこれからについて考えた。

断熱ワークショップ

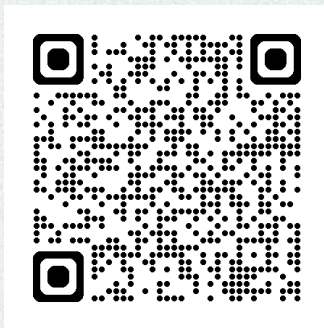


エネルギーを自分事に

地球温暖化防止のため、再生可能エネルギーによるエネルギーの代替以外に、エネルギー消費を削減する省エネについても取り組む必要がある。そこで省エネについて体感的に学ぶため、教室の断熱化に取り組むワークショップを実施した。



学校紹介動画



学校 HP



教室の断熱ワークショップ

3. 新学科『森の探究科』設置への道のり



2025年度開設 新学科

NEW!!
森の探究科GO BEYOND 超えてゆけ
通育 伊香高等学校
TEL 0749-82-4141 FAX 0749-82-4471

1. 生徒募集

- 説明会やシンポジウムなどでの広報活動
 - ▶ 生徒の発表も積極的に実施
- 伊香高通信（季刊）の地元全戸配布
- 滋賀県内の全公立中学校へ挨拶まわり（ポスター配布）
- HP、Instagram、facebookの充実
- 地域の方々に、下宿サポートのお願いと依頼文配布
- 依頼のあった説明会や取材、模擬授業等は全て引き受ける!!

2. 新学科の進路



- 「森の探究科」は林業科ではないことを強調して説明
- 先行授業例を紹介することで、新学科の学びへの理解を得る
- 実習やセミナー、イベントを通じて外部とのつながりを積極的につくる
- 高卒公務員の林業職復活の働きかけ
- 長浜市と連携した「環境未来人材育成」にむけたプランニング



3. 先行授業の実施

- 森から様々な分野に学習内容が広がるよう設計
- 他教科との教科横断や「総合的な探究の時間」との連携も実施
- 実習と講義、インプットとアウトプット、本校教員と外部講師のバランス
- 外部講師の方との調整（授業内容、講師謝金）
- 次年度入学生に興味・関心を持ってもらえる内容であるか



4. コーディネーター と教員の連携

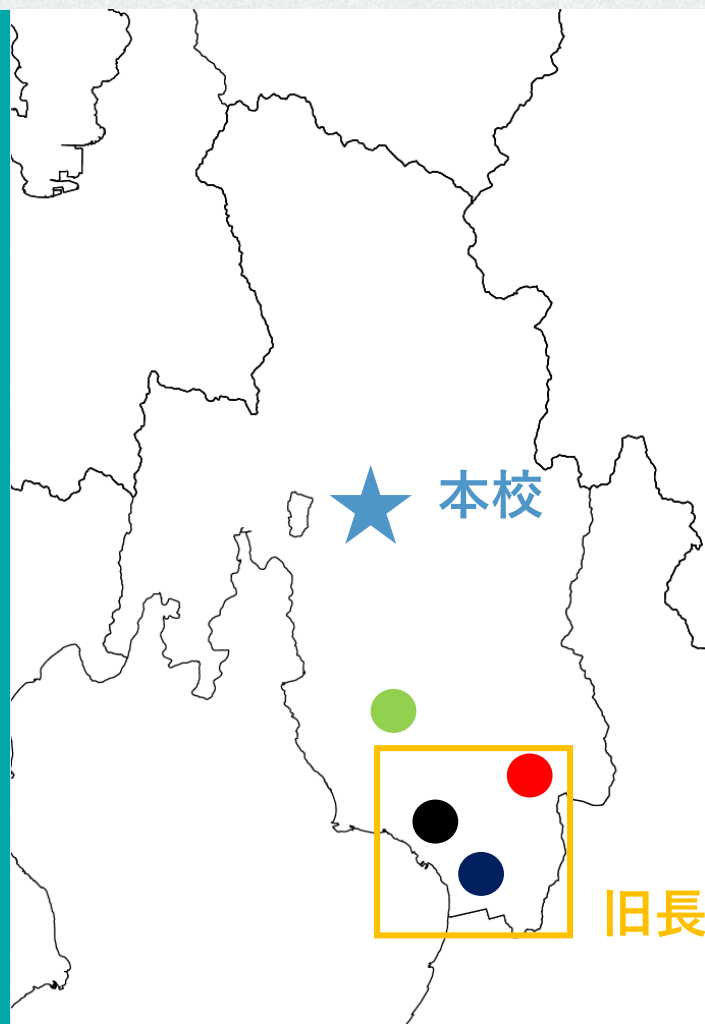
- 本校コーディネーターは3名
 - ・ 学校魅力化のグランドデザイン、コンソーシアムの体制構築と運営
 - ・ 新学科カリキュラム案の作成、先行授業の調整・実施
 - ・ 「総合的な探究の時間」の設計、SNSの更新などの広報活動
- 教務課魅力化推進室（「森の探究科推進室」）に所属
- 職員室に座席あり
- 教員のコーディネーター業への理解（→ 学校魅力化への理解も）
- 職員研修やオープンチャットを通して、取組を周知



5. コンソーシアムの構築と運営

- 地域のまちづくり協議会(7団体)と行政機関、学校組織で構成
- 地域の方々にコンソーシアムへの理解を得る地道な活動から始める
- 今年3月に設立、6月に第1回の理事会実施
- 現在コンソーシアムに予算や決定権はなく、連絡協議会となっている
- 今後どのように運営していくべきか、地域の方々を含めた検討が必要

6. 市内の高校数



- 長浜市には本校を含め、5つの高校が存在
→ 本校は主に市の北部政策局を通じて、バックアップしていただいている

- ・ 虎姫高校 (普通科、IB)
- ・ 長浜北高校 (普通科)
- ・ 長浜農業高校 (農業科)
- ・ 長浜北星高校 (総合学科・定時制・高等養護学校)

旧長浜市

4. 指定終了後の取組継続について

の PC に保存済み

の PC に保存済み

伊香高Go Beyondプロジェクト						
	R7		R8		R9	
国	普通科改革支援事業 →		未定			
	運営指導委員会 →					
人材	地域連携CN 2名 →					
	地域おこし協力隊 1名 →					
県	北の近江振興プロジェクト					
新学科の動き	森の探究科 1期生		森の探究科 2期生		森の探究科 3期生	
カリキュラム 運用	新学科 初年度		新学科 2年目		新学科 完成年度	
	「森のキホン」実施	「森の未来創造」 構想	「森のキホン」実施	「森の恵み」実施 「持続可能な社会」実施	「森の恵み」実施 「持続可能な社会」実施	「森の未来創造」 実施
地域	伊香高と地域のミライ創造コンソーシアム					
	森の探究科 運営専門チーム					
	生徒募集 専門チーム					
	地域連携 専門チーム					



伊香高校 GO BEYOND ～超えてゆけ～ ご清聴ありがとうございました。